

9890

第一回對抗演習経過概要

第一回對抗演習經過概要

甲軍佐鎮防備部隊司令部

時刻

記

事

七月
午前八時

演習開始

燕甲軍ヨリ剷除セラレタルヲ以テ防備隊所屬船艇ノ
哨戒配備ヲ左ノ通表更改命令ス

黒島ノ位置ヲ大立島燈台ノ南七哩ニ改ム
(黒島个三五了解)

八一二 佐空司令ヨリ左ノ報告アリ

軍港直上警戒機六機配備ニ就ク

八三〇 佐空司令ヨリ

敵主力地點ハトエ、イ、イ、八ニ在リ針路一九〇度
速力一二節)

八四九	<p>報ニ接シ同司令官對シ「直ニ攻撃機ヲレテ敵航空母艦ノ爆撃ヲ命ジ」又「直上警戒隊ノ全直配備ヲ下令ス」</p> <p>平戸警備隊署ヨリ</p>
八五〇	<p>敵飛行機ニ機鵜ノ越方向向フ、敵機ニ因ル最</p> <p>初通報ニ接シ電氣サイレンヲ警戒隊ニ令ス</p>
八五五	<p>敵機ニ機ヲ張岳方向ヨリ侵入我戦開機ニ攻撃手ス</p>
八五五	<p>鎮守府司令部ニ敵機ニ依ル毒瓦斯彈落下(想定)也</p>
九二〇	<p>ルヲ以テ海兵国防毒隊ハ防毒ニ從事シ九時半之ヲ終了ス</p> <p>續イテ敵機(ニ機死)ハ</p>
九四五	<p>頃再度ノ侵入襲撃ヲ行フ</p> <p>第一回對抗演習終結</p>

(終)

時 刻	橋	要
午前五—三〇	總員起床	
五—三五	合戦準備(整備三分)	
六—〇〇	寺島水道及び地出港	
七—五五	予定既備地迄到達	
八—〇〇	二直哨戒見張部署ニ就ク(第一直)	
八—一五	哨戒既備ニ就ク、發信ヲナス	
九—〇〇	哨戒見張員交代ヲナス	
九—四五	演習終結	
一〇—五五	入港用意	
一一—五	松島水道南口ニ及びス	

第一回對抗演習経過概要

軍島

河 軍

第二回對抗演習經過概要

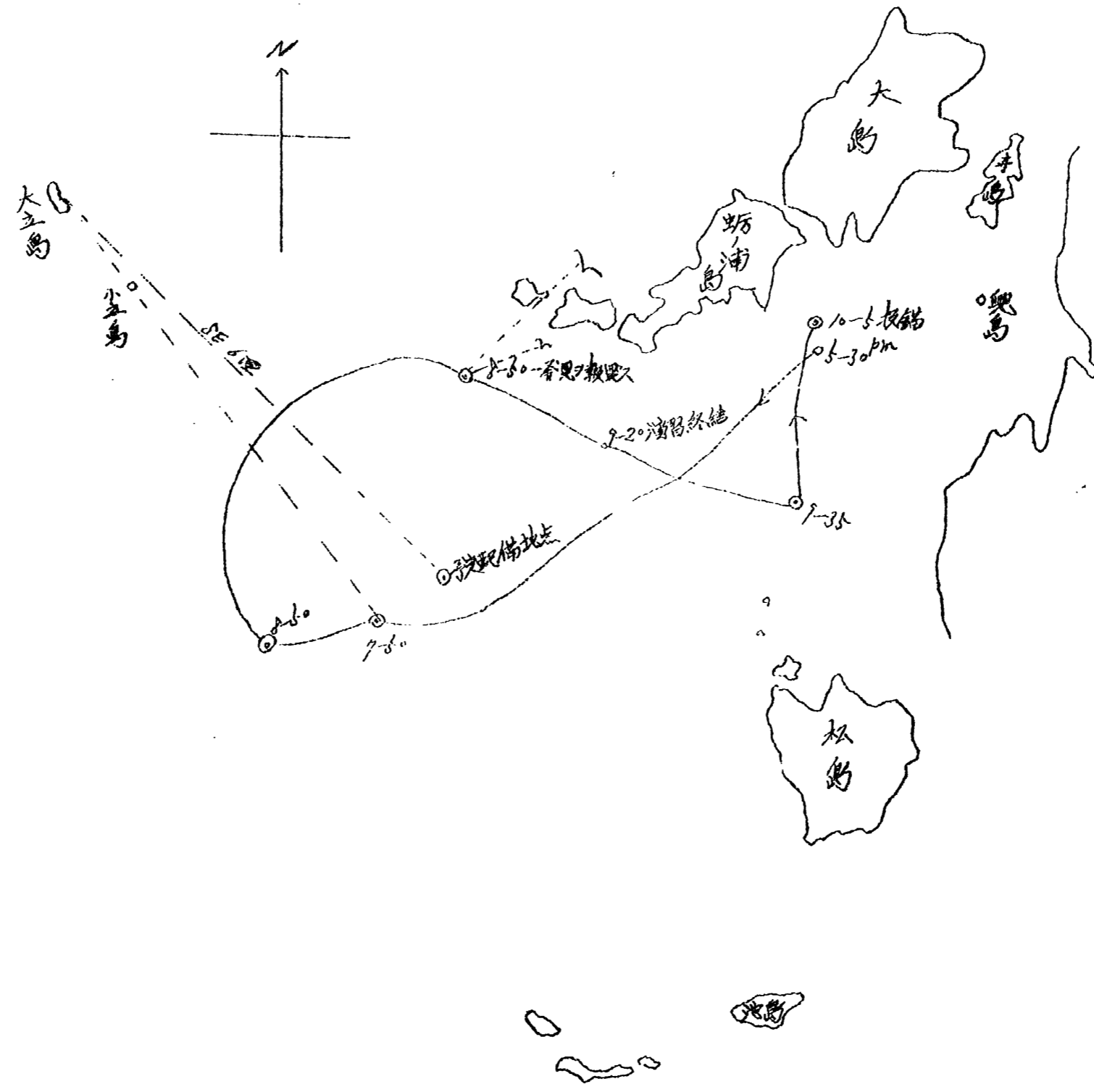
時刻摘要

午後三三〇	總員集合第二回對抗演習概要並注意説明
三四五	合戦準備並燈火管制準備
四〇〇	松島及び地拔館寺島に向フ
五一五	寺島及び地着
五三〇	予定観備地矣向ヶ寺島發
七〇〇	燈火管制ヲ行フ(警戒管制哨戒部署ニ就ク)
七一五	燈火戦斗管制ヲ行フ
七三〇	哨戒艇備ニ就ク發信ヲス
八一五	敵飛行機一發見(琦ヶ島上空進路北)
八五四	敵飛行機一基發見發信ヲス
九一〇	第二回對抗演習終結寺島及び地ニ向フ

1690

一〇一五
寺島俊為地ノ故郷

第三回對抗漢習墨釣行動圖(海面五八ト全尺度)



佐世保鎮守府第一回基本演習經過概要

敷設艇 鷗

第一回對抗演習

天候晴 雲量六 風速二十米 向北東 波浪高約五米

記 事

日 時刻
七 〇三二〇

發信者
受信者
老司令長官
死鷗艇長

山十木子第一回對抗演習中對馬ヲ參

加部隊ヨリ除キ燕ヲ乙軍ニ編入ス

燕ハ航空母艦ニ假想シ對馬ノ予定任務

ヲ逐行セヨ

出港時区ニ向テ

合戦準備戰鬪教練

第一回對抗演習開始 配備ニ就(位置)平

島(北七湊)

0805	0807	0830	0847	0903	0938	0950
統監 宛身隊長						
船艦二点距離約六千米ニ照テ認メ南 二避航ス	敵航空母艦ニ関シ情報ヲ發スルヲ 得ス	味方飛行艇一機ヲ認ム	船四十五度ニ飛行艇ヲ認ム	船艦ニ偵察機ヲ認ム	船四十五度ニ飛行艇及偵察機ヲ認ム	第一回演習中止

佐海團機密第一〇三號

佐世保鎮守府第一回襲抗演習報告

地上防空指揮官

經過概要

午前八時。演習開始

八時三十分。上空警戒機六機上空配備ニツク

八時三十分。敵主力發見

八時四十分。弓張空中見張敵機發見(攻撃機二機相浦方面より佐世保ニ向フ)

八時五十分。寄船空中見張所敵機發見(二機寄船通過東ニ向フ)

八時四十分。平戸航空隊署敵機發見(二機平戸通過鶴渡越ニ向フ)

八時五十分。敵機向後崎方面より浸入ス(電氣サイレン)

八時五十分。鎮守府ハ毒斯彈命中。防毒隊派遣

海兵團病院防毒隊派遣



九一三	敵機鶴渡越方面より浸入ス(電氣サイレン)
九一五	敵機二機寄船通過佐世保ニ向フ
九一八	警言察署ヨリ中里上空飛行機発見
九一〇	大村攻撃機隊出發 敵攻撃機航空隊上ニ爆弾投下 寄船砲台報告飛行機ニ對シ射撃ヲナス 第一回巨離二〇〇米 第二回巨離二五〇米 第三回巨離二〇〇米
九一七	敵攻撃機二機相浦方面より佐世保ニ向フ 防空砲台敵機相浦方面より佐世保ニ向フ 敵機向後崎方面より浸入ス(電氣サイレン)
九一二	防毒隊終リ 防毒隊復旧セヨ 敵攻撃機二機天神出上テ海兵團方面へ向フ 敵攻撃機火薬庫上ニ爆弾投下
九一六	天神岳空中見張所より向後崎上空敵機相浦方面ニ向フ
九一三〇	海兵團ヨリ防毒隊復旧
九一四五	第一回對抗演習中止

研究訓練項目ニ関スル成績及所見

有川見張所

一、對空哨戒及通信連絡

有川北東曾根ニ見張所ヲ設置セリ同地ハ西ハ海ニ面シ北ハ小値賀島上空ヨリ南ハ三玉山上空迄極々廣大ナル展望ヲ有ス。見張員三名電信二名ナルヲ以テ電信員一名ヲ通信ニ宛テ他ハ全部見張ニ從事セリ

第一回對抗演習中ハ風力大ニシテ雲量六對空見張ニ稍々不安ヲ感シタルヲ以テ嚴重ナル見張ヲ實施セシモ遂ニ機影ヲ認めザリキ

第二回對抗演習ニ於テハ闇黒ニシテ風力強勢、風聲烈シク飛行機ノ爆音亦ニ聞クト困難ナリシヲ以テ見張ヲ嚴重ニシモ遂ニ飛行機ヲ發見スルヲ得ザリキ

通信連絡ハ終始極々良好ニ行ハレタリ
 要之曾根見張所ハ佐世保軍港防空見張所トシテハ
 大ナル展望ヲ有シ至極適當ナル位置ナリト認ム
 T.M.式無線電信機ハ輕便ニシテ通信効果大ナルハ前回
 (第六回教通)ト相俟ツ今固ノ實驗ニ於テ明ナル如ク
 後設用トシテ極々良好ナルモト認ム

(終)

一、準備作業及経過概要

宇久島空中見張所

四月七日午前零時四十分宇久平港着荒天ニテ汽船神浦
 入港セサル爲陸行午前二時神浦着午前五時TM式輕
 便電信機一組、竹二本、抗數本、繩若干準備携帶出發
 シ城山頂上ニ登山ス。時ニ風速約十七八米余ニテ空中線
 地線等ノ掲揚ニ幾多ノ困難ヲ來シ頂上觀音堂へ機械
 据へ附ケ竹竿尖端へ空中線及他ノモノへ地線ヲ結び竹竿
 ヲ抗へ結び着ケ通信セリ。通信ハ極メテ圓滑ニ終始シ良好
 ニ経過セリ。午前八時二十分頃南方空へ「ゴロペラ」ノ音南
 へシモ風ノ爲遮ラレ全音モ斷續シ總員見張ヲ嚴シク
 モ機影ヲ認メサリキ。夫レヨリ約五六分時ノ後味方機一ヲ
 認メタリシヲ以テ前ノ機ハ味方機ナリト思ハレシモ演習中止

後下山シ村人ノ言ヲ聞クニ全時刻頃敵機之キモノ二機小
 値賀ノ上空ノ遠カ雲間ニ認メタリト時天候險悪低雲
 ニシテ発見困難ナル狀況ナリキ

二意見

航空機見張員ハ爆撃機、戰鬥機、偵察機等機影ヲ
 認めサルモ發動機ノ爆音ノミニテ其ノ何レカ判断ナシ得ル如キ
 航空機ニ対スル豫備智識ノ必要ヲ認め

終

海軍特務少尉 安永西之助

第一回基本演習月島空中見張所準備作業演習経過
概要並ニ意見

一本演習中ノ天候極メテ險悪ニシテ殊ニ準備作業ニ從事スル兵員少教
ナリシ為メ頗ル作業困難ヲ感シタルヲ以テ名入夫ヲ備入レ急遽完成
ニカメ地敷選定ニ就テハ第六回教練通信ニ依リ位置選定ニ努メタル
結果本演習準備作業ハ頗ル迅速ニ實施セラレタリ

一第期第二期中ノ天候

天候 曇天

雲量 八乃至一〇

雲高 四〇〇米乃至六〇〇米

風向 西

風力 一八米乃至三〇米

遠望

約4000米

(二神島及宇久島ヲ
毎々望ム所ニシテ)

一 準備作業

一 配備

地上防空機関編制表ニ依ル

指導部編制擔任

指導特務隊

一

送受信

下士官

一

發動機

兵

一

見張

下士官

二

(内) 各八電信所附設ニテアリテ
通信連絡ニ當ル

二 使用兵器

丁門式三分二寸移動無線電信機

一組

予備品補用品予備電池

各一個

眼鏡 (七倍三)

四個

發光信號燈、手旗、メガホン

各一個

演習経過概要(第一期)

○七二五

(演習開始五分前)佐世保電信所と連絡了る(感四)

○七三〇

全員受持配備就了、整備

○七四〇

第一回對抗演習中對馬ヲ演習参加部隊より除キ乙軍ニ
編入……トウヨリノ電報受信

○八三七

サ三方飛行艇生月南より北航シ見張所西より約二哩高度
三〇〇米ニテ針路ヲ西よりニ變針通過ス

○九〇〇

一四式水上偵察機(甲軍)南東より來り見張所上空より北より
變針通過ス

○九二〇

一四式水上偵察機(甲軍)南東より生月島北端ヲ西よりニ變針
通過ス

○九四五

一四式水上偵察機(甲軍)南東より來り生月島北端より東岐
向ケ通過ス

〇九四六 第一回對抗演習中止(受信)

一〇三〇 配備ヲ解ク

(第二期)

〇七〇〇 全員配備ニ就ク、整備

〇八三五 二回駆逐隊襲撃終了、電報受信

〇八四〇 對馬宛〇八〇〇第二期演習終結、電報受信

〇九二〇 第二回對抗演習中止、電報受信

一〇〇〇 配備ヲ解ク

一通信状況

演習全期を通じて通信量甚多、その他艦所防衛ヲ受クルトナリ通信ハ迅速

實施セラレタリ

然レドモ全期を通じて受信状況見ルニ觀計測ノ通信電報ハ取船間及ビ飛行機通

信ノ受信多ク、誤ルヲ以テ今後計測ニ於テハ適増電波送信ニ考慮事ト認ム

三、仮設無線電信所ノ位置

生月島北端大高山(八九)ヨリ一五度七〇〇米

四、見張所ノ位置

大高山(八九)ヨリ二五度五〇〇米(西海岸)

五、見張區域

三五度ヨリ左右七五度(臺岐宇久島、北西間)

六、仮設無線電信所ト見張所トノ巨離

約五〇〇米

七、仮設無線電信所ト見張所ト通信連絡

手旗・發光

八、佐電ト連絡通信法

甲軍佐領所備部隊作戰計劃筆面對抗演習無線通信系ニ依ル

九、仮設無線電信所設置ニ要セシ時間

8020

約三時間三十分

活

目

意見

生月島北端御崎より西海岸上帯の高サ三〇米乃至九〇米余ノ岩壁ニシテ見張區域ハ北東量岐ヨリ西南半ノ島間約百五十度ノ展望ヲ有シ空中見張所トシテ最も適當ナル地形ト思考ス五十戸余ノ人家ハ主トシテ東海岸附近ニ散布シ有ルヲ以テ人家ヲ利用モテ仮設無線電信所ヲ設置スルトキハ見張所ト巨島相當隔リ有ルヲ以テ之レガ通信連絡ニ手旗等ニテハ頗ル時間ヲ要ス故ニ之レガ迅速ヲ計ルニハ移動式有線電送ノ敷設ヲ最良ト認ム又見張區域廣ク以テ勘クトモ見張員六名以上(三人直上シテ二面配置)ノ人員ノ必要アリ

生月島附近ハ殊ニ北面ノ風浪キ関係上西海岸ニ居住スル者無ク今後見張所設置ノ必要アルトキハ相當ノ見張所ヲ設置セザルニ任務遂行上頗ル困難ナリ住民ハ種々片手農業者ニシテ一般ニ住宅少ク一家ニ兵員三四名位ヒノ収容力ニテ十名余ノ人員ハ三家乃至五家ニ分離セザレバ収容不可能ナリ又食料品等モ之レニ貯蔵スル貯蔵ヲ有セザルニシテ起ルルヲ以テ相當ノ準備ヲ必要ト思考ス

第一回基本演習第一回對抗演習経過概要

甲軍佐世保海軍航空隊

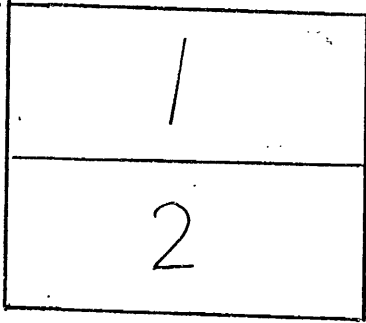


時刻	経過概要
0800	演習開始
自0800 至0810	索敵機八機、哨戒機二機出奔配備ニ就ク
0810	上空警戒六機配備ニ就ク
0830	S一二敵主力発見地点「トハイノイ」八針路一九〇度速
	カ一二節次テ0835S04、0847S13、0855S06
	敵主力発見觸接ス
0840	攻撃機ニ出奔ヲ命ズ
0845	P「直ニ攻撃機ヲシテ敵航空母艦ヲ爆破セシメヨ」
0848	敵航空母艦ノ位置ニ疑問ノ点アリ 大村航空隊ヘ「攻撃機ノ出奔待テ」ヲ令ス
0850	P敵飛行機二機平戸通過港口ニ向フ

〇八五五	大村航空隊へ「戦闘機全力配備ニ就テ」
〇八五八	口弓張岳方面ヨリ敵攻撃機二機侵入
〇八五九	大村航空隊へ「攻撃機直ニ攻撃ニ向ヘ」
〇九〇五	大村航空隊へ「敵ハ右ニ変針ス針路ニ〇〇度〇九〇〇」
〇九〇六	攻撃機隊大村出奔
〇九〇九	大村航空隊ヨリ「戦闘機全力配置ニ就ク」
〇九〇九	「敵攻撃機一機(才三四)佐空陸上飛行場ニ不時着」
〇九一〇	五六小隊ニ敵主力ニ觸接ヲ命ズ
〇九一七	口敵機二機向後崎方面ヨリ侵入
〇九三三	偵察機サ五七號五五號敵主力觸接ノ爲出奔
〇九四八	演習中止
一一〇〇	総飛行機各所屬航空隊ニ飯着

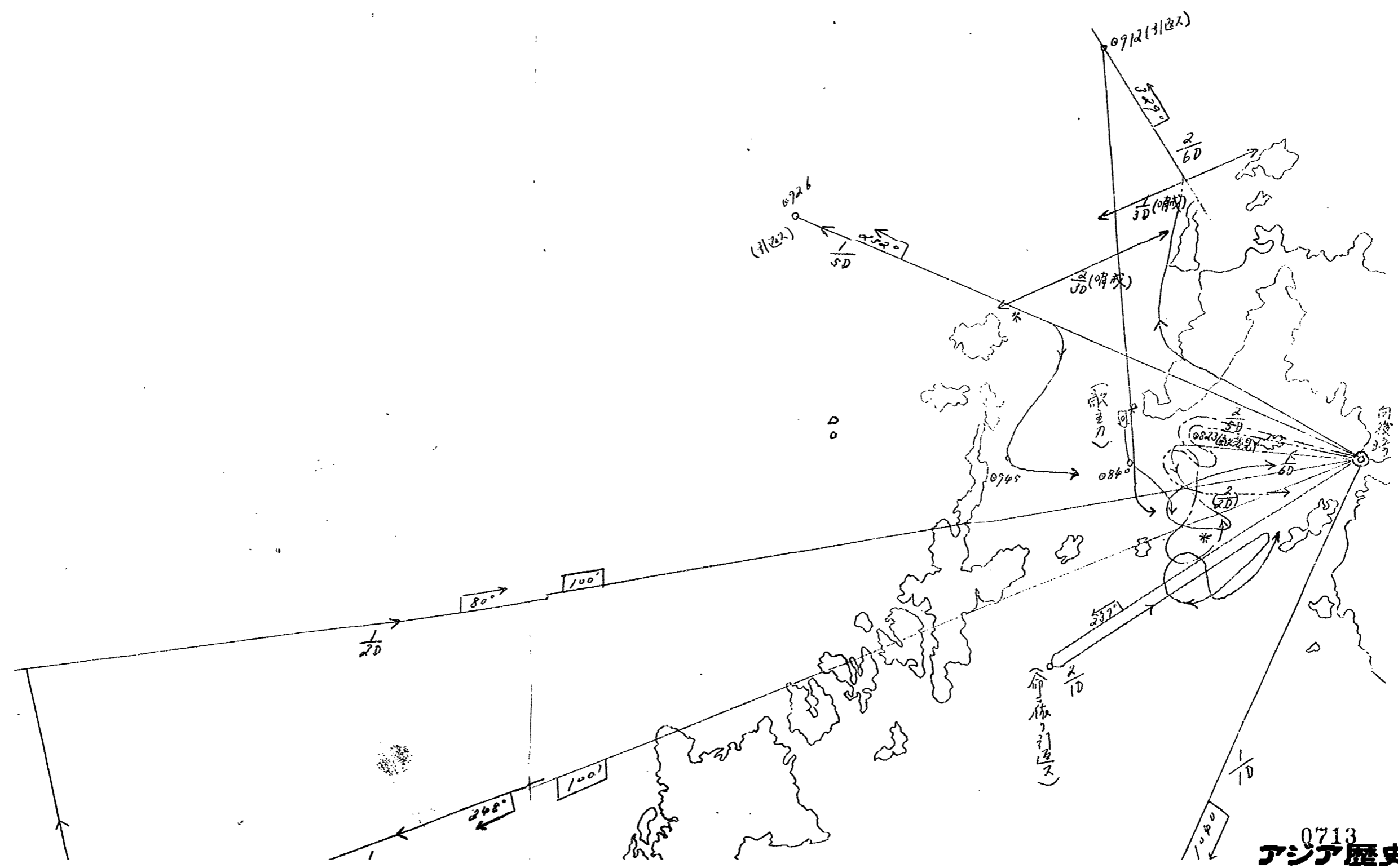
(終)

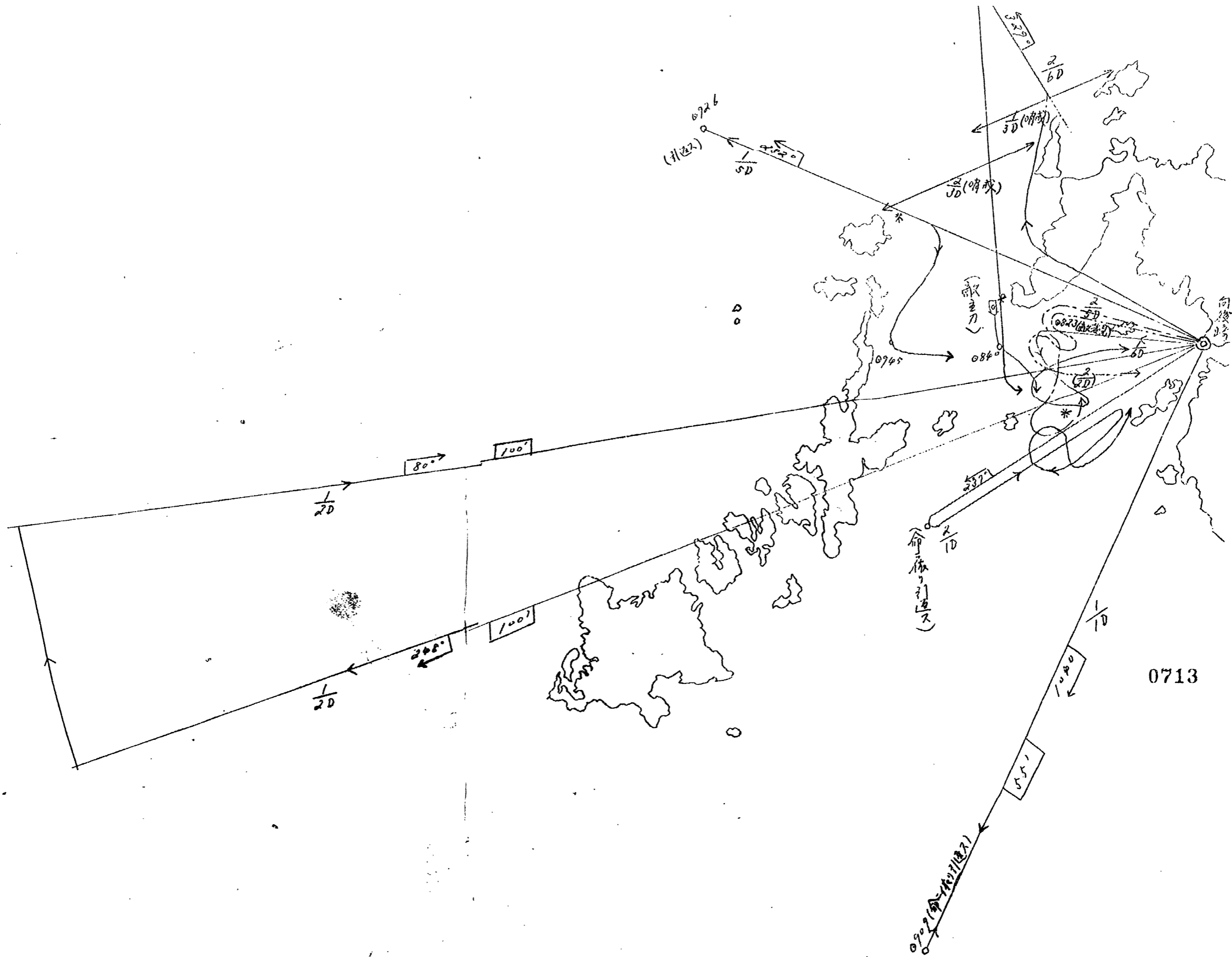
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを証明する。 13年 6月 15日	

第一回基本演習第一回對抗演習飛行校隊行動圖(四月七日)

- I 油軍海軍180号1回天度
- II 針路、真方位ヲ示ス





第一回對抗演習演習日誌

大村海軍航空隊

日	四月
曜	火
天候	曇
風	向 北 風 力 8-9
氣温	最高 21.8 最低 6.2
湿度	最高 75.5 最低 59.9
雲	SK R
備考	記

時刻 發令者 備考
 0800

第一回對抗演習開始

第一回對抗演習開始
 第一回對抗演習指定作業(想定)其急攻前進基
 地に於て戰子機一基敵撃、爲大破不命令
 基地に於て代機ヲ急送整備セヨ開始

0845	航空隊 指揮官	電話	航空司令	敵航空母艦發見位置志々波、西五邊針路 一九〇度速力一二節豫定、行動トシ
0849	右	同	右	攻撃機隊出發待テ
0850	右	同	右	先、敵航空母艦發見ハ誤リ
0851	右	同	右	戦闘機全直配備ニ就テ
0900	右	同	右	攻撃機直ニ出發セヨ(敵、位置若ク電 通リ)
0907	右	同	右	敵ハ右ニ變針ス針路二〇〇度
0908	航空司令	右	同	攻撃機隊出發

海軍

第四回對抗演習演習日誌

大村海軍航空隊

時刻	發令者	電報	電報	受令者	雲		風		氣溫		湿度		記事
					高	量	方	向	最高	最低	最高	最低	
0910	文官司令	電報	電報	航空官									戰鬥機二基出發 乙軍攻擊機一基才三四号本隊之不時着 第一次整備作業完了(整備所平時二三) 第二次整備作業(命令發動機ヲ起動セヨ)
1010													
1040													

0730	第一回對抗演習記事 合戦準備	大村海軍航空隊
0735	戦闘教練	
0753	赤坂義第二第三第四隊(戦六)出發警戒配備ニ就ク	
0806	第一回對抗演習開始	
0806	第一次校正備指定作業(想定、某急攻前進基地ニ於テ戦斗後一基敵彈、爲大破ス)	
0908	命令基地ニ於テ代換ヲ急速校正備セヨ開始	
0910	爆撃隊(攻四)敵航空母爆撃ヲ爲出發	
0910	上空警戒第一隊(戦二)出發警戒後全直配備トナル	
0945	上空警戒第二隊(戦三)返隊	
0948	第一回對抗演習中止	
0950	要具納メ	
1000	合戦準備元ハ	

海軍

1005	上空警戒隊第三小隊(戦三)砲隊
1010	爆撃隊(攻四)砲隊
1010	上空警戒隊第一第三小隊(戦四)砲隊
1020	第一次整備指定作業完了(整備所要時間 二二〇)
1020	第二次整備指定作業(命令發動機ヲ起動セヨ)指定飛行機才一三四二審判官指示ニヨリ搭乗員ヲテ起動セヨ

海軍

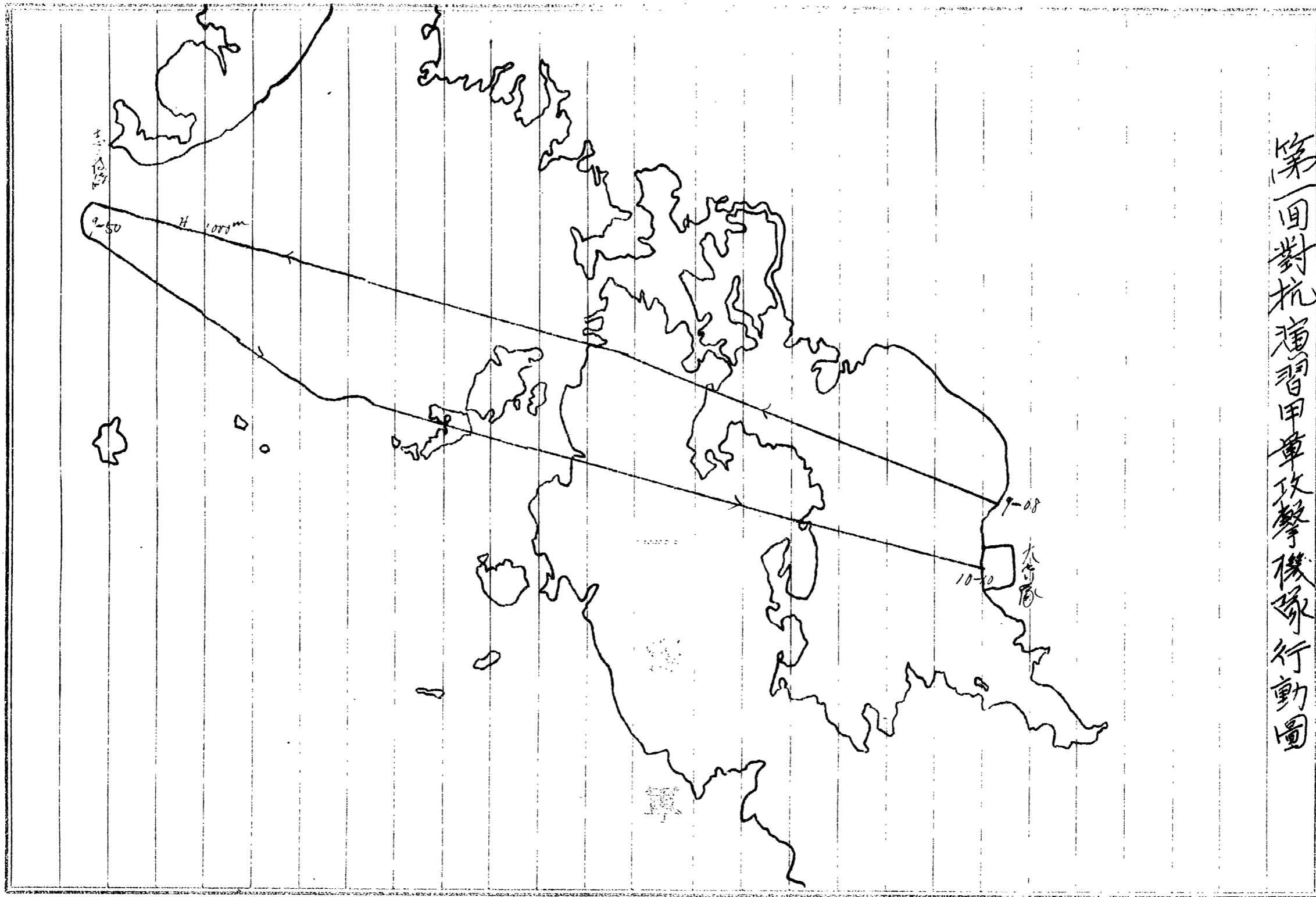
時刻	記事
八〇。	演習開始
九一。八	大空離陸
九一。	航路三〇。度ニ定針
九一。	白瀬上空ニテ本隊ヨリ敵母艦位置受信
九一。三	大立島南方ニ湮ノ地点ニ敵ヲ見シテ船ヲ發見
九一。	之ニ向フ(敵ニアラザルヲ確ム)
九一。	大立島南方ノ船高船ヲ見シテ志々岐岬
九一。	方向ニ進ミシモ敵ヲ見ズ
九一。	大立島南方ノ船ヲ再度確ルタメ大立島ニ向フ
九一。四	演習中止トナル

佐賀第四回基本演習第四回對抗演習經過概要要旨軍政擊隊

(六六三)

0720

												1010
												級着



第一回對抗演習甲軍攻撃機隊行動圖

0721

佐鎮第一回基本演習第一回討抗演習經過概要(八空)

第一軍航空隊

經過概要

時刻

記事

七—五〇

第三三、四中队大行祭

八—〇〇

演習開始

八—〇五

第三中队(高度一三〇〇米)第三中队(高度一〇〇〇米)第四

中队(高度二五〇〇米)香港上空警戒或配備就了

八—四六

敵攻撃機二基討了第二中队 龍形攻撃機 次了

第三中队 龍形攻撃機

八—四九

敵攻撃機一基討了第四中队 龍形攻撃機

九—一〇

敵攻撃機一基討了第三、四中队 龍形攻撃機

九—一五

敵攻撃機二基討了第二中队 龍形攻撃機

一軍 隊

九一〇五	第一中隊大村登一
九一二五	第一中隊敬吾或配俸就 ^ニ 第二中隊ト交代ス
九一四八	墮習中一 ^三

終

海軍

第一回對抗演習實施經過 夕張

時刻	信		文	記	事
	發信所	受信所			
7-30	夕張	(E) A	午前八時迄 = 便宜 合戦準備ヲナシ第 二配備 = 就キ對空 警戒ヲ嚴ニセヨ		-
7-48				合戦準備	
8-0				第一回演習開始航空機見張部 署 = 就ク	
8-43	鎮守府 無線塔		敵機針尾方向ヨ リ侵入ス		
8-44	夕張	(E) A	第三配備ヲナセ	第三配備 = 就ク	
8-42.5				敵攻撃機四機將冠岳方向ヨ	

0724

				リ襲來
8-48				射撃開始
8-50				敵機針尾、方向=退却ス、射撃 中止
8-53.5				敵攻撃機四機向後崎、方向ヨリ 襲來
				左警戒
8-55				射撃開始
8-56	9張	(E) A	敵機向後崎方 向ヨリ侵入ス	
8-57				敵機佐世保航空隊、方向=退 却ス 射撃中止
9-7	9張	(E) A	敵機鶉渡越方	敵攻撃機二機鶉渡越方向ヨ

0725

0726

			向ヨリ侵入ス	リ襲來
9-8				射撃開始(銃隊員全部前評)
9-10.5				敵機佐世保航空隊ノ方向ニ退却 ス射撃中止
9-17				左警戒敵攻撃機四機愛宕山 ノ方向ヨリ襲來
9-17.5				射撃開始
9-19	鎌倉所 黒線塔		敵機向後崎方向 ヨリ侵入ス	
9-20				敵機早岐方向ニ退却ス射撃 中止
9-43.5	9張(E)A		第二配備ヲナセ	第二配備ニ就ク
9-45				艦内三直哨戒トナス

9-47	鎮子所 無課	吹流	演習終結要具收A
			整備復舊
			(終)

0727

軍艦陸奥

第一回對抗演習、經過概要並研究項目對心成績意見

一、經過概要

時刻

實施項目

記事

七三〇

合戦準備、次々戰鬥教練

七三四
八時迄、合戦準備、予令第二配
備、就中對空見張り、散見

七四三

艦内四直哨戒、見張員ヲ配ス

其都度來襲、先々航空機
防衛部署、秋々有効に射撃

八〇九

敵攻撃機二機、右舷より來襲

八四二
空〇 (鎮守府)

八五五

敵攻撃機一機、左舷より來襲、石所防禦部署實施

八四二
空〇 (鎮守府)

九一五

敵攻撃機一機、左舷より來襲

八五五
空K (鎮守府)

九一二

防水部署實施

九一三
空H (鎮守府)

九一四

敵攻撃機二機、左舷より來襲

九一五
空K (鎮守府)

九一五

合戦準備、及戰鬥準備復旧ス

九一八
漫習中止 (鎮守府)

二、研究項目之対心成績並所見

三

6220

十之
關係項目、實施ハ何等錯誤ナシ
順調ニ経過特記スル所見

(終)

海軍

第四對抗演習ニ於ケル經過概要並研究項目ニ對スル成績意見

加賀

一 經過概要

時刻記

事

○八〇〇 演習開始(合戰準備見張配置哨戒部署完成)

○八四二 △航〇

○八四三 △第三配備ヲナセ

○八四四 警戒戒

○八四八 右90°(高度80°2000)攻撃機二機ヲ發見打方始メ

敵機ハ右舷ヨリ左舷ニ航過ス

○八五〇 打方止メ

○八五六 △航K 警戒戒

○八五七 左70°(高度30°1500)攻撃機一機 打方始メ

○八五八	敵機ハ左舷ニテ及轉ス 打方止メ
○九一〇	左方(高度4000)攻撃機一機及發見打方始メ
○九一一	敵機雲中ニ没ス
○九一三	△航〇
○九一五	左方(高度4000)攻撃機二機及發見 警告戒
○九一七	打方始メ
○九二〇	敵機ハ左舷側ヲ航過ス
○九四五	打方止メ
○九四八	△第二配備ヲナセ 演習中止
二研究項目ニ對スル意見	

(イ) 對空哨戒

敵機、空襲ヲ豫期スル場合ニハ艦艇ハ或ルハ
 散在ニテ警戒泊セシムルヲ可トシ又本艦ノ如キハ
 二十糎砲モ航空機防禦ニ使用シ得ルヲ以テ遙
 カ沖合ニ砲泊セシメ置クヲ有利ト認ム

(ロ) 防禦砲火ノ管制

射撃方向ニヨリテハ味方ニ損害ヲ與フル虞アリ
 ルヲ以テ適當ニ砲火ヲ管制スルノ要アリ

(終)

軍艦名取

海軍

經過概要並ニ研究訓練項目之関スル成績意見

第二回對抗演習

經過 對空哨戒ハ左表ノ臨時編制部署ニヨリ之ヲ實施セリ

見張位置	員數	固有戰隊配置	敵索見後ノ部署
艦橋	二	艦長員 分隊員	其ノ後見張ニ從事
前部探照燈	四	探照燈員	照射續行
一番高角砲	四	固有砲員及分隊員	
二番高角砲	四	全	右
前部探照燈隊員	約二	主砲員、彈藥庫員、隊管員	
後部探照燈隊員	約八	全	右

意見

一、昼間ノ對空見張ニ眼鏡ヲ用ヒテ充分見張ノ効果

ヲ收メ得

二、夜間ノ對空見張、於迅速確實ナル敵察見ハ肉眼ニテハ勿論六七倍稜鏡雙眼鏡ニテハ未ダ不充分ニシテ視覺ニヨル敵察見ノ為ニハ少クモ八糧雙眼望遠鏡以上十九ヲ要ス

三、射撃基準距離ヲ小銃五〇〇米ト仮定サレタルニ核銃ト射撃開始時核ヲ区分スルコトハ事實上困難ナリ又之ヲ制限スル必要ヲ認メス

四、平穩ノ暗夜ニ於テハ敵機察見ハ音響ニ依ル方有効ナルモ風力一五米以上ニ及ビテハ敵機頭上ヲ通過スルモ其ノ音響ヲ判斷シ能ハサル場合多シ

五、探照燈照射教練ハ演習前相當長期間訓練シ置キタルトモ敵機照射實績ハ不良ナリ殊ニ聯合

海軍